

大 学 史 研 究 通 信

第 74 号、2013 年 4 月 30 日 (火)

大学史研究会

第 74 号の内容 : 会員ニュース・新入会員自己紹介・第 36 回大学史研究セミナー (於中央大学) のご案内・ロジャー・ガイガー教授講演会報告・2013 年度会費納入のお願い・会員新刊ニュース・『大学史研究』編集委員会からのお知らせ・事務局からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

会員ニュース

新入会員

小川 智瑞恵 会員

所属：東京大学史料室

研究テーマ：キリスト教と教育の歴史

山本 尚史 会員

所属：九州大学大学院

研究テーマ：国際交流史、高等教育史、文化政策

久原 みな子 会員

研究テーマ：日米の高等教育史、比較教育、近現代日本思想史

恒川 清爾 会員

研究テーマ：明治～大正期の日本の技術者、日本の技術者教育

異動のあった会員

三時 眞貴子 会員

新所属：広島大学 教育学研究科

大西 巧 会員

新所属：白鳳女子短期大学 総合人間学科

深野 政之 会員

新所属：大阪府立大学 高等教育推進機構

長谷部 圭彦 会員

新所属：上智大学・明治大学・駒澤大学・青山学院大学 非常勤講師

<異動に伴う会員情報更新の届出をお願いいたします>

新年度となり、所属や住所等に変更のある会員は、事務局までご一報ください。ホームページ掲載の「事務局連絡先」フォーム、あるいは年会費払込票 (郵便口座) の「通信欄」を利用することも可能です。

(事務局会員情報担当：浅沼薫奈)

新入会員自己紹介

久原 みな子 会員

はじめまして。新しく入会しました久原みな子と申します。

これまで慶應義塾大学社会学研究科とウィスコンシン大学マディソン校教育政策学科の修士課程で、主に比較教育、高等教育史、アメリカ教育史に取り組んできました。特に20世紀半ばまでのアメリカ合衆国のカレッジ教育、ジェネラル・エデュケーション運動と、戦後占領下の日本における高等教育改革に焦点を当ててきました。また、それらとの関連で、学問史、知識人・エリート形成の歴史、20世紀日本の思想史にも関心があります。どうぞよろしく願いいたします。

恒川 清爾 会員

この度「大学史研究会」に入会させて頂いた恒川清爾（つねかわせいじ）と申します。私は、長らく「ものづくり」の技術に携わってきましたが、日本の技術と技術者を外から見直したいと思うようになりました。そこで引退後、東京工業大学大学院に入学し、科学史・技術史を学び、明治期の技術者について研究してきました。

日本は、明治初期の近代技術ゼロの状態から急速に発展し技術立国になりましたが、私は、その基礎を作った明治―大正期の日本の技術者たちと、その技術者を育てた技術者教育に関心があります。皆さまのご指導を頂きたく、よろしく願いいたします。

第36回大学史研究セミナーのご案内(再掲)

本年度の大学史研究セミナーを以下の場所・日程で開催いたします。

■日時：2013年10月26日（土）、27日（日）

■場所：中央大学・後樂園キャンパス（東京都文京区）

http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_korakuen_j.html

本年度のセミナーは、ウィスコンシン大学のAdam Nelson教授による講演、自由研究発表、総会、懇親会という構成で開催いたします。

自由研究発表のお申込みについては次号のご案内致します。会員の皆様の多数のご参加をお待ちいたします。

なお、Nelson教授をお迎えするに先立ち、9月頃に、事前研究会を開催する計画を考案中です。教授の主要な著書および論文を以下にご紹介しますので、事前研究会にご関心のある方は、事務局アドレス（jshshe@daigakushi.jp）までご連絡ください。

Nelson, A. R. (2013). "Institutionalizing Agricultural Research in the Early American Republic: An International Perspective," In Geiger, R. L. & Sober, N. M. (ed.) (2013). *The Land-Grant Colleges and the Reshaping of American Higher Education, 1820-1920*. Transaction Publishers.

Nelson, A. R., & Wei, I. P. (2012). *The Global University: Past, Present, and Future Perspective*. Palgrave Macmillan.

Nelson, A. R., & Rudolph, J. L. (2010). *Education and the Culture of Print in Modern America*. Madison, WI: University of Wisconsin Press.

Nelson, A. R. (2005). *The Elusive Ideal: Equal Educational Opportunity and the Federal Role in Boston's Public Schools, 1950-1985*. University of Chicago Press.

Nelson, A. R. (2001). *Education and Democracy: The Meaning of Alexander Meiklejohn, 1872-1964*. University of Wisconsin Press.

Nelson, A. R. *Empire of Knowledge: Nationalism, Internationalism, and American Scholarship, 1770-1830*. Manuscript in preparation. (forthcoming).

(事務局セミナー担当：深野政之)

ロジャー・ガイガー教授講演会報告

ペンシルバニア州立大学のロジャー・ガイガー (Roger L. Geiger) 教授が来日され、2013年2月12日に、東北大学高等教育開発推進センター主催・大学史研究会共催のセミナー講演会が東北大学東京分室で開かれました。大学入試の時期でありどのくらいの参加があるか心配しておりましたが、結果として研究会に30名以上、セミナー後の懇親会にも20名近くのご参加がありました。大学史研究会会員のみならずにも多数ご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。ご協力ありがとうございました。

セミナー参加記として

今回の共催セミナーは、科学研究費補助金基盤研究 (B) 「知識基盤社会におけるアカデミック・インテグリティ保証に関する国際比較研究」(研究代表者：羽田貴史会員)の一環として開催されたもので、事務局員の五島が連携研究者として参加している関係から、昨年8月にペンシルバニア州立大学を訪問してご承諾いただき、ご来日の運びとなりました。

講演内容は、“The Ten Generations of American Higher Education”と題する論文(ハンドアウト)に基づいて、ハーバード設立から現代にいたるアメリカ高等教育史を10区分に分けて考察するものでした。私が最初にこの10区分を学んだのは、“The Historical Matrix of American Higher Education”(*History of Higher Education Annual, vol. 12, 1992*)においてでした。アルトバックらによる*American Higher Education in the Twenty-First Century: Social, Political, and Economic Challenges*(Johns Hopkins University Press, 1998)にも所収されたことはよく知られる通りです。今回は、同書第3版(2011)に沿ったご講演でしたが、最後に、1)diversity、2)sustainability、3)social justiceという3つの新しい価値を提示された点に、また新鮮な発見がありました。

東京から仙台に向かう新幹線の中でこの話をさせていただいたところ、ガイガー先生は、「もともと講義のために書いた論文だったが、図らずも、私の論文では一番よく読まれている論文らしい」と微笑まれておられました。現在ご執筆中の大学史研究書でも、17世紀に遡って長期にわたって探求されているとのこと。また、フランスの社会学研究から日本の私立大学研究にいたったお話を伺う機会を得たことも、私自身、大変、貴重な経験となりました。先生は、西海岸で2つの講演を終えた後での来日とのことでしたが、「実はカタールに招かれていたが、さすがに今回はいけない」と残念がっておられたのは、驚くばかりでした。長年の憧れの先生をお話しができ、穏やかで優しいお人柄とタフで精力的な研究意欲に触れることができ、改めて感銘を受けました。

(事務局：五島敦子)

2013年度 年会費納入のお願い

今年度の年会費納入についてお願いのご連絡を申し上げます。大学史研究会の実収入は、会員各位からの年会費に大きくよっております。前回の通信に掲載しました会計報告のとおり、昨年度の年会費納入率は69.7%であり、未納のケースも少なくなく、本研究会の財政状態は芳しいとはいえません。毎年2月頃に未納会員宛に納入依頼通知を再送することにいたしました。これを開始して8年目にあたる現在におきましては、残念ながら当初ほどの効力はなくなりつつあります。

大学史研究会の発展と円滑な運営のため、会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。次第です。年会費の納入の詳細につきましては、同封の納入依頼通知をご覧ください。

年会費は5,000円です。なお、大学院等在学あるいは日本学術振興会特別研究員の各位には、「院生・学生会費」として3,000円が適用されております。また、過年度分年会費未納の会員には、未納年度と本年度会費分を含めた金額総計を通知しております。年会費を3ヶ年度分以上滞納されている会員には、研究会の継続参加のご意志を年会費納入によって

確認できるまでは、大学史研究会からの諸連絡、「研究通信」、「大学史研究」(紀要)等の発送の停止が決定しております。該当する会員へのご連絡通知には、これに関する事項が記載されておりますのでご留意願います。なお、本通知依頼発送と入れ違いに年会費を納入いただきました場合には、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

—— 年会費納入払込先 ——

郵便振替口座 : 大学史研究会 口座番号 00120-3-47583
または
銀行口座 : 大学史研究会 三井住友銀行 池袋東口支店 (店番 671)
普通預金 (口座番号 3456109)

(事務局会計担当 : 山崎慎一)

会員新刊ニュース

館 昭 『原理原則を踏まえた大学改革を一場当たり策からの脱却こそグローバル化の条件』東信堂、2013年1月。

馬越 徹・大塚 豊 『アジアの中等教育改革—グローバル化への対応』東信堂、2013年4月。

『大学史研究』編集委員会からのお知らせ

次回編集委員会は5月11日に開催いたします。現在第25号の編集および第26号の原稿受付を行っております。投稿を希望される方は、事務局の岡田(daishi@home.nifty.jp)まで原稿をお送りください。

(事務局紀要担当 : 岡田大士)

事務局からのお知らせ

新年度になりました。異動があった方は事務局までご連絡ください。また、今号には会費納入のための払込用紙を同封いたしました。お手数ですが、会費の納入をお願いいたします。繰り返しのお願いになりますが、よろしく願いいたします。

退会者の報告

2012年度をもって以下の会員が退会なさいました。長い間本会の活動にご協力賜わりまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

佃 隆一郎 会員
山内 乾史 会員
布施 芳一 会員
吉永契一郎 会員

編集後記

2月のガイガー先生の講演会は、いろいろな意味で、大変、勉強になりました。今年は、第36回大学史研究会セミナーに向けて、鋭意努力させていただき所存です。ネルソン先生の近著(2013)は、国際的な科学文化交流に焦点を当てて、学問の制度化のプロセスを分析するものですので、会員のみなさまの関心に通じるところがあるのではないかと思います。よろしくご指導いただきますようお願いいたします。

(事務局通信担当：五島敦子)

『大学史研究通信』第74号の編集は、事務局・五島敦子が担当いたしました。

連絡先：agoshima @nanzan-u. ac. jp

『大学史研究通信』第75号は、2013年8月2日発行予定です。

大学史研究会事務局

<事務局連絡先>

〒 192-0393 東京都八王子市東中野 742-1

中央大学法学部 研究室受付 岡田大士気付 大学史研究会

Tel&Fax: 042-674-3151 E-mail: daishi@home.nifty.jp

ホームページ <http://daigakushi.jp/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします

E-mail: jshshe@daigakushi.jp

大学史研究会事務局員 (五十音順)

浅沼 薫奈 (大東文化大学)

岡田 大士 (中央大学)

長谷部 圭彦 (上智大学等)

山崎 慎一 (桜美林大学)

井上 美香子 (九州大学大学文書館百年史編集室)

五島 敦子 (南山大学短期大学部)

深野 政之 (大阪府立大学)